

## 県外派遣報告書

審判員名	若林 哲	所属	U15
大会名	令和7年度 第36回 関東高等学校バスケットボール新人大会		
期 間	令和8年2月7日(土)～2月8日(日)		
会 場	木更津総合高等学校、拓殖大学紅陵高等学校、君津市民体育館		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
2月3日(火)	審判会議、研修会	ZOOM会議、参加者自宅他	
2月7日(土)	男女1, 2回戦	木更津総合高等学校	
2月8日(日)	男女準決勝・決勝	木更津総合高等学校、拓殖大学紅陵高等学校	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>●大野専務理事 この大会の第1回大会も千葉県で開催された。急遽の選挙開催により会場変更を余儀なくされたが、この大会に招集された審判員には選ばれた理由がある。自分の感性を信じてコートに立って欲しい。責任は全て専務理事がとります。</p> <p>●平原関東ブロック審判長 急遽の会場変更に関わらず、無事に大会を開催できることについて千葉県の方々に感謝申し上げます。参加する審判員は開催県の方々の苦労を認識して、なるべく地元の方々に迷惑をかけないよう、自分のことは自分でやるようにして欲しい。</p> <p>【レクチャー】</p> <p>●本間さとみ氏（東京都） 「S級ライセンス取得までの振り返り」 ・トップリーグの試合を観戦し、バスケットボール・審判の魅力を感じてみる。・自分自身を深く知るために、試合映像をよく見て、セルフスカウティング(自分の癖など)の実施。・P O Cを重視し、事実を根拠とした判定を徹底していくこと。・弱さやミスを含め、クレーン選手・コーチとの対話を重視して信頼関係を築いていくこと。以上のような取り組みをしてきたことにより、決断力と強さに変化を感じ、「心からバスケットボールを楽しむ審判」になり、結果としてS級になることもできた。</p> <p>●小澤朋克氏（群馬県） 「審判活動における経験の共有とS級に昇格できた要素について」 ・家族の支えと仲間が存在が大切であるため、感謝の気持ちとポジティブに様々なことを考え、チーム指導と審判を両立する。 ・関東ブロックは審査ゲームである学生リーグなどが身近にあり地方に比べると有利な点がある。ぜひ映像をよく振り返ることが大切。 ・S級に昇格できた要因を評価表から分析するとともに、今大会でも全員で取り組んでいこうという確認が行われた。</p> <p>●北島寛臣氏（埼玉県） 「指導者と審判の関係性について」 ・指導と審判を両立する難しさとメリットについて・・・メリットはたくさんある。最新のルールやバスケットボールについて学べる。同じ立場の仲間が増える。得た経験を全てチーム指導に生かせる。指導者目線からも審判を行うことにより共感していけることもできる。 ・チームはこの関東大会に向けてほぼ休みなく練習をしている。一方私たち審判はこの大会に向けてどれだけの準備をしているか？ 準備を入念に行い、与えられた時間の中で全力で謙虚に取り組む、これまでの成果を発揮しましょう。</p>			

実技						
担当試合	期 日	2月7日(土)	男子	女子	男子1回戦	
	対戦カード	湘南工科大学附属高等学校 VS 文星芸術大学附属高等学校	CC	U1	U2	
	相手審判	U1:原弘高氏(東京都) U2:湯浅将悟(千葉県)				
ミーティング内容 主任						
【ゲーム前】						
<p>○ベーシックなメカニクスの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エッジは基本的にリードが確認する(イレギュラーはあまり発生しない)</li> <li>・とにかくプライマリーを尊重する(微妙なケースは特に)。</li> <li>「誰がどう見ても」「明らか」という場合のみケイデンスで対応する。</li> </ul> <p>○当たり前のことを当たり前に確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・点数が正しく加算されているか、タイマーが正しく動いていて正しいタイミングで止まっているか。</li> </ul> <p>○ゲームフローを考えた上でのプレーコーリング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・点差や出場しているメンバーなどを考慮して、必要なコールを吟味する。</li> <li>・新人戦であるがゆえの未熟なプレーやラフなプレーに対する準備(常にテンポセットする意識)。</li> </ul>						
【ゲーム後の振り返り】						
<p>2Q以降はコンスタントにコールが入ったおかげで、スムーズにゲームが進んでいった。1Qの時間帯でもっとコールしてメッセージを伝えていけば、もっと早い時間帯でゲームが落ち着いていた印象。特に足元や、手の使い方の部分は両チームに対して早めにメッセージを伝えて欲しかった。ケイデンスコールがいくつかあったが、誰がどう見ても明らかなケースだったため、納得感があった。個人的な反省としては、もっとロートルを意識すると、コンタクトに関してもっと見極めができると思う。</p>						
担当試合	期 日	2月7日(土)	男子	女子	男子1回戦	
	対戦カード	習志野市立習志野高等学校 VS 新島学園高等学校	CC	U1	U2	
	相手審判	U1:平山智章(栃木県) U2:清水倫人氏(山梨県)				
ミーティング内容 主任 猪股氏(千葉県)						
【ゲーム前】						
<p>○ベーシックなメカニクスの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エッジは基本的にリードが確認する(イレギュラーはあまり発生しない)</li> <li>・とにかくプライマリーを尊重する(微妙なケースは特に)。</li> <li>「誰がどう見ても」「明らか」という場合のみケイデンスで対応する。</li> </ul> <p>○当たり前のことを当たり前に確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・点数が正しく加算されているか、タイマーが正しく動いていて正しいタイミングで止まっているか。</li> </ul> <p>○ゲームフローを考えた上でのプレーコーリング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・点差や出場しているメンバーなどを考慮して、必要なコールを吟味する。</li> <li>・新人戦であるがゆえの未熟なプレーやラフなプレーに対する準備(常にテンポセットする意識)。</li> </ul>						
【ゲーム後の振り返り】						
<p>メンバーチェンジが多い試合だったが、その都度その都度テンポセットがなされ、安心できる内容だった。外から見ていると明らかにコールが必要なプレーでも、選手自身が分かっているケースがいくつかあった。その選手に対してどのような形でメッセージを伝えていくのかは工夫の余地がある。2人で笛が鳴るケースが多かった印象なので、どちらがプライマリーなのかを再確認する必要がある。セカンダリーだという認識なのであれば、もっと遅らせてコールする意識を持つことで、ダブルコールを防ぐことができる。</p>						
全体の感想						
<p>まず初めに開催元である千葉県バスケットボール協会の皆様、そして今大会へ派遣してくださった埼玉県バスケットボール協会に感謝申し上げます。今回はCCとして2試合を担当させていただきました。</p> <p>CCとして常に周囲に気を配り、不測の事態に備えていくメンタルはもちろん必要ですが、今回は「いかにクルーの力を引き出すか」に課題が残りました。クルーがミスをしてしまった時や、どうしても必要なセカンダリーコールをした時にメンタル面でのフォローをする必要性を強く感じました。私自身の傾向として「全てを自分でやろうとしてしまう」ということがあります。結果的に視野を広げすぎて判定の根拠が薄くなってしまったり、本来気にしなくてもいいプレーを気にしてしまったりすることが多いです。クルーとしての最大の協力は「お互いがお互いのプライマリーを死守して判定力を発揮すること」だと思っています。そのために、クルーの力を引き出してあげる、崩れた時に立ち直らせてあげる術をもっと磨かなければいけないと思いました。また、今は「ノーコール」で収めているものを、もっと「コール」してメッセージを伝える必要性も感じました。そういう意味では、コールしたものよりも「鳴らさなかったもの」に課題が残りました。ライセンスアップを目指す上では避けては通れない課題です。今後もトライしていきたいと思えます。</p> <p>以上で派遣報告とさせていただきます。ありがとうございました。</p>						

# 県外派遣報告書

審判員名（報告者）	箱石 拓也	所 属	U18 カテゴリー
大会名	令和7年度 第36回関東高等学校バスケットボール新人大会		
期 間	2026年 2月7日 ~ 8日		
会 場	木更津総合高等学校 拓殖大学紅陵高等学校 君津市民体育館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
2月 3日	審判会議、研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
2月 7日	男女1・2回戦	木更津総合高校 君津市民体育館	
2月 8日	男女準決勝・決勝	拓殖大学紅陵高校 木更津総合高校	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>●大野専務理事（挨拶）</p> <p>●平原関東ブロック審判長</p> <p>【レクチャー】</p> <p>●本間さとみ氏（東京都）</p> <p>「S級ライセンス取得までの振り返り」</p> <p>・トップリーグの試合を観戦し、バスケット・審判の魅力を体感する。・自分自身を深く知るために、試合映像をよく見て、セルフスカウティングの実施。・POCを重視し、事実と根拠とした判定を徹底していくこと。・弱さやミスを認め、クルー・選手・コーチとの対話を重視して信頼関係を築いていくこと。</p> <p>以上のような取り組みをしてきたことにより、決断力と強さに変化を感じ、「心からバスケットを楽しむ審判」になり、結果としてS級になることもできた。</p> <p>●小澤朋克氏（群馬県）</p> <p>「審判活動における経験の共有とS級に昇格できた要素について」</p> <p>・家族の支えと仲間の存在が大切であるため、感謝の気持ちとポジティブに様々なことを考え、チーム指導と審判を両立する。</p> <p>・関東ブロックは審査ゲームである学生リーグなどが身近にあり地方に比べると有利な点がある。ぜひ映像でよく振り返ることが大切。</p> <p>・S級に昇格できた要因を評価表から分析するとともに、今大会でも全員で取り組んでいこうという確認が行われた。</p> <p>●北島寛臣氏（埼玉県）</p> <p>「指導者と審判の関係性について」</p> <p>・指導と審判を両立する難しさとメリットについて・・・メリットはたくさんある。最新のルールやバスケットについて学べる。同じ立場の仲間が増える。得た経験を全てチーム指導に生かせる。指導者目線からも審判を行うことにより共感していけることもできる。</p> <p>・チームはこの関東大会に向けてほぼ休みなく練習をしている。一方私たち審判はこの大会に向けてどれだけの準備をしているか？準備を入念に行い、全力で謙虚に取り組み、これまでの成果を発揮しましょう。</p>			
担当試合①			
期 日	2月7日（土） 1回戦		
対戦カード	昭和学院（千葉）vs 作新学院（栃木）		
ク ル ー	CC：平原勇司氏（本部） U1：箱石拓也氏（埼玉） U2：下島清花氏（神奈川）		
ミーティング内容	審判主任：雨宮恵氏（山梨）		
▶ゲーム前のPGC			

昭和学院・・・この能力が高く、高さがあり、1対1が強いチーム

作新学院・・・上背はないが、スキルが高く、アウトサイドを中心にスピーディーな展開を好むチーム

メカニクスの確認：edgeのprimaryはLであること。しっかり見にいきましょう。

HDRのエリアをしっかりと確認しましょう。

危ないところには必ず足を運びましょう。Cサイドでダブルチームがあったりした際は、積極的に見にいきましょう。

自身のチャレンジしたいこと：凡ミスしないように進めたい。最低でもGCを失わない範囲での最小限のミスに留めたい。Primaryでの判定をキチンとしたい。

最終確認：ミスについてはお互い様なので、クレーワークを最大限発揮できるよう努めていきたいと思います。吹いたものは、同じように吹いていきたいと思います。ミスマッチのあるマッチアップはしっかり3人で見ておきましょう。作新学院のコーチからのアピールと選手の頑張りすぎてしまうプレーに対して、どこで線を引いていくか。

▶ゲーム後のミーティング いくつか吹かなくて良いコールがあった。

- ① トランジション中の黒のハンドチェックは影響なしでいかせたい。
- ② 後半の白チームの3secはなくて良かった。
- ③ ポスト争いのやり取りをもう少し見て影響が明らか位なところで笛を入れるとちょうど良いレベル。

メカニクスの修正

3人でコールしたケース。HDR 黒がCプライマリーからのドライブ Cコール Lコール Tコール L(箱石)がレポートしてしまったケースをCにレポートしてもらいましょう。

#### 担当試合②

期 日	2月7日(土) 1回戦
対戦カード	千葉経済大学附属高等学校(千葉) vs 星槎国際高等学校(神奈川)
ク ル -	CC:箱石拓也氏 U1:雨宮恵氏(山梨) U2:海老澤美羽氏(群馬)
ミーティング内容	審判主任:本間さとみ氏(指名)

▶ゲーム前のPGC

凡ミスなし: OOBやファールコールを慌てずに丁寧に。

メカニクス: HDRとedgeの確認 Lローテーション

外国籍選手のICとGC 早めの対応をしましょう。

▶ゲーム後のミーティング

非常に見応えのある試合だった。その中で気になるものをいくつか挙げてもらった。

- ① 外国籍のマッチアップディフェンダーに対して3Qでファールを記録して欲しかった。特に白8番。
- ② EOGの際のスローインファールにするのかORしないのか?
- ③ コミュニケーションの取り方

#### 全体の感想

●まず初めに、この度ご派遣いただきました埼玉県審判委員長眞榮喜様、大会期間運営にご尽力いただきました千葉県バスケットボール協会の皆様をはじめとした審判員の皆様、割当クルーやTO役員、その他大会に関係するすべての皆様に改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

女子1回戦を2試合を割当ていただきました。地元開催県の千葉県のチームの試合のため緊張感のある試合でした。そして自身の課題が明確になった大会でした。①プライマリー:自身のプライマリーではない時の判定を無理してるケースがある。凡ミスする判定の要因。②プレゼン:ディレクションの出し方をハッキリさせる。③POC:AOS際のPOCをわかりやすくメッセージを込めて。Position adjust:捉えを素早くし、分析に入る時間をより早くしていくことで、判定力を高めていく。メカニクス:Lローテーションの判断が悪い。Primaryの確認。などの課題がありました。今大会の課題をクリアし、A級レフリーとしてのレベルアップはもちろん。必ずS級になる。

# 県外派遣報告書

審判員名（報告者）	小原 宏太	所 属	U18東部
大会名	令和7年度 第36回 関東高等学校バスケットボール新人大会		
期 間	2026年 2月7日 ～ 8日		
会 場	木更津総合高等学校 拓殖大学紅陵高等学校 君津市民体育館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
2月 3日	審判会議、研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
2月 7日	男女1・2回戦	木更津総合高校 君津市民体育館	
2月 8日	男女準決勝・決勝	拓殖大学紅陵高校 木更津総合高校	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>●大野専務理事</p> <p>この大会の第1回大会も千葉県で開催された。急遽の選挙開催により会場変更を余儀なくされたが、この大会に招集された審判員にも選ばれた理由がある。自分の感性を信じてコートに立って欲しい。責任は全て専務理事がとります。</p> <p>●平原関東ブロック審判長</p> <p>急遽の会場変更にも関わらず、無事に大会を開催できることについて千葉県の方々に感謝申し上げます。参加する審判員は開催県の方々の苦労を認識して、なるべく地元の方々に迷惑をかけないよう、自分のことは自分でやるようにして欲しい。</p> <p>【レクチャー】</p> <p>●本間さとみ氏（東京都）</p> <p>「S級ライセンス取得までの振り返り」</p> <p>・トップリーグの試合を観戦し、バスケット・審判の魅力を体感する。・自分自身を深く知るために、試合映像をよく見て、セルフスカウティングの実施。・POCを重視し、事実と根拠とした判定を徹底していくこと。・弱さやミスを認め、クルー・選手・コーチとの対話を重視して信頼関係を築いていくこと。</p> <p>以上のような取り組みをしてきたことにより、決断力と強さに変化を感じ、「心からバスケットを楽しむ審判」になり、結果としてS級になることもできた。</p> <p>●小澤朋克氏（群馬県）</p> <p>「審判活動における経験の共有とS級に昇格できた要素について」</p> <p>・家族の支えと仲間の存在が大切であるため、感謝の気持ちとポジティブに様々なことを考え、チーム指導と審判を両立する。</p> <p>・関東ブロックは審査ゲームである学生リーグなどが身近にあり地方に比べると有利な点がある。映像でよく振り返ることが大切。</p> <p>・S級に昇格できた要因を評価表から分析するとともに、今大会でも全員で取り組んでいこうという確認が行われた。</p> <p>●北島寛臣氏（埼玉県）</p> <p>「指導者と審判の関係性について」</p> <p>・指導と審判を両立する難しさとメリットについて・・・メリットはたくさんある。最新のルールやバスケットについて学べる。同じ立場の仲間が増える。得た経験を全てチーム指導に生かせる。指導者目線からも審判を行うことにより共感していけることもできる。</p> <p>・チームはこの関東大会に向けてほぼ休みなく練習をしている。一方私たち審判はこの大会に向けてどれだけの準備をしているか？準備を入念に行い、全力で謙虚に取り組み、これまでの成果を発揮しましょう。</p>			
担当試合①			
期 日	2月7日（土） 女子 1回戦		
対戦カード	日本航空高等学校（山梨県） vs 宇都宮文星女子高等学校（栃木県）		
ク ル ー	CC：山崎 律子氏（茨城） U1：小原 宏太（埼玉） U2：引田 水穂氏（千葉）		
ミーティング内容	審判主任：野口 祐子氏（千葉）		

▶ゲーム前の PGC

- ・県予選での戦い方とチームの特徴についての確認。
- ・留学生に対する守り方や起こり得るファールについての確認。
- ・各自の審判についての課題や、今回のゲームで気をつけていきたい点の共有。
- ・C サイドでのトラップに対する見方の確認。

▶ゲーム後のミーティング

- ・全体を通して、スムーズなゲーム展開となった。前半は何かあればクルーで笛が入り落ち着いた運びとなったが 3 Q 途中でバタついた時間帯があった。8 秒についてのアピール・ルーズボールからのシュートなどと決着を要する場面で笛が入ることなく進めたことによるものであった。
- ・オフェンスがスティールされた際にファールが起きて、ボーナスフリースローになるかオフェンスファールになるかどうかのケースが発生し、クルーで確認を行い適切な処置に繋げることができた。
- ・コーチの言動などにも気を配り、寄り添った姿勢で対応することができた。お互い協力的な関係を築くことができたゲームとなった。

担当試合②

期 日	2月8日(日) 男子準決勝
対戦カード	山梨学院(山梨) vs 東海大相模学校(神奈川)
ク ル ー	CC: 平原 勇次氏(本部) U1: 大川 尚氏(千葉) U2: 小原 宏太(埼玉)
ミーティング内容	審判主任: 若林 謙作氏(栃木)

▶ゲーム前の PGC

- ・片方のチームのみに留学生がいるため、そこに対する守り方やリバウンドに対してなどの手や体の使い方をよく確認する。
- ・新人戦の時期であるため、トラベリングなどが起こる可能性がある。
- ・表示物については確実に把握していく。必要があれば修正すること。
- ・ドライブからのフィニッシュに対する守り方においては各チーム別の特徴が見受けられる。吹き急がずに長く見て判定をする。
- ・ハイピックでのオフェンスにおけるリードの考え方やコミュニケーションの考え方など課題に対する見解も教えていただいた。

▶ゲーム後のミーティング

- ・個人的には終始、笛が重くなってしまい大事な場面でコールすることができなかった。ゴール下でのシュートに対するヒットやプッシュ、ルーズボールなどで決着をつける必要があるものをコールできず、CC にヘルプしてもらったことが多かった。
- ・メカニクスの点で C においては、窮屈に見えることがある。目の前にボールが来ている時には下がって見ることにより、首が振られるほどの距離感を解消することができる。
- ・ショットクロックについてはエアボールにも関わらずリセットされてしまった場面がいくつかあったが、適切に対処する事ができていた。

全体の感想

はじめに開催元である千葉県バスケットボール協会の皆様、また今大会へ派遣して下さった埼玉県バスケットボール協会に感謝申し上げます。今回は 2 泊審判員として 2 日目も担当させていただきました。

昨年度に続いての 2 日目を担当することになりましたが、2 日目としては初めての男子ゲームとなりました。新人戦とはいえハイレベルなゲームであったり、クルーに S 級がいたり、普段はあまり感じる事のない緊張感を体感しました。個人的にはこの舞台でやり切れた。という実感は全くなく悔しさとともに終わってしまいました。しかしながらそれが実力であり、今回得た経験も元に更に精進していく所存です。

審判において、トレンド・メカニクス・笛のタイミングなど様々なことが年々変化しています。2 人や 3 人でゲームを運営していきますがそれでも自分一人で全てのことを把握することや、最初からプライマリーではないエリアを任せきりにするのではなく必要があれば自分でもいける準備をする。など考え方の面でも学びが多くありました。

レクチャーやコート内外での学んだ点を自分自身に取り入れるとともに、埼玉県に還元していければと思います。

以上で派遣報告とさせていただきます。今回は誠にありがとうございました。

# 県外派遣報告書

審判員名(報告者)	竜田 雅史	所 属	U15
大会名	令和 7年度 第36回関東高等学校バスケットボール新人大会		
期 間	2026年 2月7日 ~ 8日		
会 場	木更津総合高等学校 拓殖大学紅陵高等学校 君津市民体育館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
2月 3日	審判会議、研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
2月 7日	男女1・2回戦	木更津総合高校 君津市民体育館	
2月 8日	男女準決勝・決勝	拓殖大学紅陵高校 木更津総合高校	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>●大野専務理事</p> <p>この大会の第1回大会も千葉県で開催された。急遽の選挙開催により会場変更を余儀なくされたが、この大会に招集された審判員にも選ばれた理由がある。自分の感性を信じてコートに立って欲しい。責任は全て専務理事がとります。</p> <p>●平原関東ブロック審判長</p> <p>急遽の会場変更にも関わらず、無事に大会を開催できることについて千葉県の方々に感謝申し上げます。参加する審判員は開催県の方々の苦勞を認識して、なるべく地元の方々に迷惑をかけないよう、自分のことは自分でやるようにして欲しい。</p> <p>【レクチャー】</p> <p>●本間さとみ氏 (東京都)</p> <p>「S級ライセンス取得までの振り返り」</p> <p>・トップリーグの試合を観戦し、バスケット・審判の魅力を感じてみる。・自分自身を深く知るために、試合映像をよく見て、セルフスカウティングの実施。・POCを重視し、事実と根拠とした判定を徹底していくこと。・弱さやミスを認め、クルー・選手・コーチとの対話を重視して信頼関係を築いていくこと。</p> <p>以上のような取り組みをしてきたことにより、決断力と強さに変化を感じ、「心からバスケットを楽しむ審判」になり、結果としてS級になることもできた。</p> <p>●小澤朋克氏 (群馬県)</p> <p>「審判活動における経験の共有とS級に昇格できた要素について」</p> <p>・家族の支えと仲間の存在が大切であるため、感謝の気持ちとポジティブに様々なことを考え、チーム指導と審判を両立する。</p> <p>・関東ブロックは審査ゲームである学生リーグなどが身近にあり地方に比べると有利な点がある。ぜひ映像でよく振り返ることが大切。</p> <p>・S級に昇格できた要因を評価表から分析するとともに、今大会でも全員で取り組んでいこうという確認が行われた。</p> <p>●北島寛臣氏 (埼玉県)</p> <p>「指導者と審判の関係性について」</p> <p>・指導と審判を両立する難しさとメリットについて・・・メリットはたくさんある。最新のルールやバスケットについて学べる。同じ立場の仲間が増える。得た経験を全てチーム指導に生かせる。指導者目線からも審判を行うことにより共感していけることもできる。</p> <p>・チームはこの関東大会に向けてほぼ休みなく練習をしている。一方私たち審判はこの大会に向けてどれだけの準備をしているか？準備を入念に行い、全力で謙虚に取り組み、これまでの成果を発揮しましょう。</p>			
担当試合①			
期 日	2月7日(土) 1回戦		
対戦カード	前橋市立前橋高等学校(群馬県) vs 県立甲府昭和高等学校(山梨県)		
ク ル ー	CC: 藤本 梨紗氏(神奈川) U1: 竜田 雅史(埼玉) U2: 久保 大空氏(千葉)		

ミーティング内容	審判主任：青木 茉奈美氏（東京）
<p>▶ゲーム前の PGC</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県予選での両チームの戦い方や特徴の確認。（両チームアウトサイド主体）</li> <li>・メカニクスの確認。エッジの見方、エリアとアングル、テンポセットの重要性など。</li> <li>・各自の審判の強みと課題。（ゲームの中で強みを発揮し、弱みを改善・クルーでカバーできるように。）</li> <li>・新人戦なので、次のチーム作りの目安となる判定も意識する。</li> </ul> <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム全体を通して、スムーズにゲームが進み、プライマリーの審判がコール→レポートが出来ていた。また、クロックの訂正やファールのグレードの確認など、クルーワークも良かったと思う。選手やベンチも不満なくプレーに集中して出来ていたと思う。キープレイヤーの周辺は、クルーで共有して、分厚く見る意識があるとより安心感が生まれたのではないか。</li> <li>・ゲームの序盤に、連続してコンスタントにファールを吹いたことで、よいテンポセットとなった。</li> <li>・個人的には、片方のチームはクイック 3 P が多いチームだったので、リードローテーションの際、途中でタイミングをアジャストしていたが、より早い段階で感じられるとより良かった。</li> <li>・POC にさらにこだわってレポート。（判定が合っていても、メッセージが選手に伝わらなくなる。）</li> </ul>	
全体の感想	
<p>この度は関東高等学校バスケットボール新人大会に派遣していただき、貴重な経験をさせて頂き、誠にありがとうございました。また、他県の方々との交流を通して、とても充実した時間を過ごすことができました。</p> <p>今回の関東大会は、以前派遣された関東大会よりも、落ち着いたメンタルでゲームに臨むことが出来ました。今大会の前に、1 つ 1 つどんな大会でも、どんなカテゴリーでも、どんな回戦でも目の前の試合を懸命に取り組む気持ちの大切さを、改めて気付かされる出来事があり、審判に取り組む姿勢を今まで以上に大事にして、決意をもって望みました。</p> <p>個人としては、担当試合ではうまくクルーで協力しながらできましたが、個人の課題として「自分が C C だったら・・・」との観点で振り返った時に、目の前の現象に必死で、今回のように無事に終わらせることは難しかったのではないかと感じます。CC に合わせるだけでなく、自分でもゲームをコントロールかを考え、今後の活動に取り組んでいきたいです。</p> <p>最後になりますが、今大会の開催元であります千葉県バスケットボール協会の皆様、埼玉県の眞榮喜審判部長をはじめ、埼玉県協会や審判部の皆様、本大会に派遣させて頂き誠にありがとうございました。この貴重な経験を、必ず次のステージへの糧となるように、精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。</p>	